

6月 21日(日曜日)「赦しとさばきの神」

【新改訳 2017】

詩篇 99・1－9

「われらの神、主。あなたは、彼らに答えられた。あなたは、彼らにとって赦しの神であられた。しかし、彼らのしわざに対してはそれに報いる方であった。われらの神、主をあがめよ。……主は聖である。」(8、9節)

私たちは神を信じるという時も、ややもすれば優しさ、愛、赦しという、自分に都合のよい面を一面的に強調し、要求してしまうのではないでしょうか。要注意です。

ここでは次の二点を学びましょう。①神は、確かに赦しの神です。神は、イスラエルの歴史の中で、確かにご忍耐と御力をもって彼らを教え導いてくださいました。民の繰り返しの罪にもかかわらず。しかし、②同時にさばき

の神でもありました。「彼らのしわざに対しては報いられた」のです。つまり、悪い言動に対しては、さばきを下されました。彼らが、そこから立ち返るためです。

愛と義は、神にあっては矛盾しません。キリストの十字架がまさにその最たるものです。両面を正しく覚えましょう。

～祈り～

主よ。あなたを利己的に信じることからお守りください。赦しのお方とさばきのお方であることを、両面から信じる信仰でありますように。

【学びのために】

「十字架」の両面について:イエス・キリストの十字架は、実は、神の義(によるさばき)と神の愛(赦し)が、同時に表された出来事であることを忘れてはなりません。